

2018年8月15日発行

サポセン和歌山

更生保護サポートセンター和歌山：〒640-8157 和歌山市8番丁4・八番丁館3

発行責任者：
和歌山保護司会会長
編集：企画調整保護司

TEL：073-460-9298
FAX：073-425-1301

E-mail：saposen_w@ares.eonet.ne.jp

第
33
号



おはよう
ございます
はい、今日も元気に
行ってらっしゃい!



第68回 “社会を明るくする運動” JR和歌山駅頭広報活動 7月2日 230 余名がJR和歌山駅頭で汗を流す 「再出発を見守る社会」の実現を願って…!

去る7月2日、午前7時30分よりJR和歌山駅頭において第68回“社会を明るくする運動”街頭広報活動が実施された。

参加者は保護司97名を中心に県市社明推進委員会を構成する機関・各種団体より総勢229名。所属団体名入りのタスキを着け、配付物品を手へ一声かけながら広報活動に汗を流した。

当日、犯罪予防活動部員は会場準備や受付のため午前6時20分に集合し6時50分より受付を開始。

7時20分より広報活動のため参加者それぞれが所定の位置に移動し



▲早朝より「受付等準備」ご苦労さま

広報活動を展開。今回ファインダーを覗いていて、のぼり旗やプラカードが少なく、元気がなかったように感じたが、気のせいであろうか…。

8時10分より場所を改装された「わかちか広場」に移し、メッセージ伝達式が行なわれた。（奥田・記）



JR和歌山駅東口でも頑張りました



【参加者内訳】

- 保護司会：東支部40名・西支部14名・南支部18名・北支部25名
- 更生保護女性会47名
- 協賛団体55名
- 法務省9名
- 県市職員21名
- 合計229名



▲舞台背面の大型パネルディスプレイに保護司会が作成したパワーポイントを投影し、大変分りやすい演出でした。

メッセージ伝達式



伝達式は、犯罪予防活動部会長の宮本 二氏の司会でスムーズに進行。

きいちゃん・ワカP君・ダメゼツタイ君も参加したよ。



メッセージ伝達式は、“社会を明るくする運動”県・市推進委員会事務局長の熊部昭滋観察所長の挨拶で開会。続いて桂枝曾丸社明大使より「総理大臣メッセージ」が県知事代理・山田成紀環境生活部長に。次に、尾花正啓和歌山市長には「総理大臣メッセージ」と「県知事メッセージ」の伝達が行なわれた。

会の言葉で、午前9時に終了となった。

その後、自身の更生保護への思いの詰まった桂枝曾丸社明大使の挨拶に大きな拍手が起こった。続いて和歌山地方検察庁より藤川浩司次席検事が主唱者の挨拶を述べた。次いで、県推進委員長代理の山田県環境生活部長と市推進委員長の尾花市長が挨拶に立った。最後に小西健之県保護司会連合会会長の閉



南支部「社明月間講演会」●平成30年7月10日●高松・志學館2F

「コミュニケーションのあり方について考える」

講師：日本心理学会認定心理士 古川としこ氏

和歌山保護司会南支部は、毎年7月の社明月間中に高松の県立図書館で講演会を開催しています。今年で68回目の“社会を明るくする運動”にふさわしい講演と講師ということで、一昨年の講演会でも講演いただき、とても良く分かったと好評だった心理カウンセラーの古川としこ先生に再登場いただきました。

講演内容も「人と信頼関係を築けるコミュニケーションはどうすれば良いのか」という保護司だけではなく、誰でもが毎日の生活に必要な心構えと知識・技術を分かりやすく興味深くお話しいただきました。

講演内容そして魅力ある語り口の古川先生だから100名の参集を予定し、張り切ってお土産袋を用意しましたが、この真昼間の酷暑が災い



したのか、7割の出席で空席が目立ったのは誠に残念でした。講演後のミーティングで、支部長からの暑さもさることながら、各地区での参加呼びかけにも問題があったのでは、との厳しい指摘がなされました。

以下、皆様の参考として講演内容を要約します。

まず、思考・感情の伝達には以下の二通りがある。

- ①言語：ハ・ヒ・フ・ヘ・ホ
- ②ボディランゲージ（身振り）

相手の話を聞くときには、ハー、ヒェー、フーン、ヘー、ホー等を使って受容・共感を行うこと。また、「なるほど」「やっぱり」「それで」等、相手の言葉が生きるような「つなぎの言葉」を使う。決して「けど」「でもね」等の「否定的な言葉」は使わない。その場面、その人の気持ちを的確に判断することが大切である。また、聞き方のポイントとしては、相手の正面に座らず斜めに座る。そして、相手を見ながらゆったり目に、柔らかいトーンで話すこと。何事も決めつけの考えを捨てること。

時には自分の言葉の使い方を振り返りつつ、受容と共感の思いをもって寄り添っていくことが何より大切であることを学びました。（杉谷・記）



西支部“社明月間”活動報告1 ●平成30年7月11日

ミニ集会 in 葦原 ●葦原地区 西教寺本堂

第68回“社会を明るくする運動”西支部のミニ集会在葦原地区の西教寺（西永保護司宅）において海野犯罪予防部長の司会で午後7時より開催された。

昨年度に引続き宮本 二保護司（北支部）を講師に招き、「更生保護と薬物乱用の防止について」と題して1時間余りに亘りお話をいただいた。開始直後パワーポイントのパソコンに不具合が起き少々慌てたが、そこは宮本講師、経験の豊富さと情報の多さで急遽話の組立を変えられ見事にクリアー。

レジメに沿った話からは少し外れる事とはなったものの、40数人の更生保護に関わる関係者の身近な問題

点に絡めた話や薬物の怖さについて耳を傾けました。



西支部“社明月間”活動報告2 ●平成30年7月24日

南海本線市駅・駅頭広報活動



連日37度超えの酷暑が続く中、全面改築中の南海和歌山市駅の臨時入口前に於いて、7月24日（火）午後4時30分頃より恒例の街頭啓発活動を実施しました。

今回参加したのは、西支部保護司13名と和歌山西署より1名の応援も頂き総勢14名でした。約30分程で持ち込んだ啓発グッズも配布完了。最後に集合写真を撮り、噴き出す汗を拭き拭き解散となった！！

（西支部・事務局）

東支部3地区・社明月間活動報告（中地区・河南地区・河北地区）



【河北地区・直川校区】

7月21日（土）直川小学校運動場において、恒例の「直川小学校夏祭り」が開催されました。当地区では保護司と更生保護女性会がこの夏祭りの機会に子どもたちや保護者の皆さまに「社明運動の啓発活動」を行なっています。

祭りの開始時刻である午後5時は陽もまだ高く、流れる汗を拭いながらの啓発グッズ配布となりました。暑さも手伝って「うちわ」が一番人気でした。

祭りは、一年生による「子ども神輿」でスタートし、模擬店出店・盆踊りへと続き、花火の打ち上げで幕となりました。（北井・記）

【中地区・日前宮夏祭り】

7月26日、日前宮夏祭り・薪能に「うちわ」「濡れティッシュ」等「社明啓発グッズ」の配布活動を実施しました。参加してくれたのは保護司6名と更生保護女性会5名の計11名でした。

今年は異常な暑さのため、17時15分に受付を開始しました。例年より早いのですが、少しでも日陰にとの配慮だそうです。イスに座っておられる来場者には、「うちわ」と「ウェットティッシュ」が好評でした。18時10分に配布すべき品物が無くなり、『お疲れさまです』の声で解散となりました。

次は8月5日の鳴神神社の盆踊りに、お手伝いに参ります。（山田・記）



【河南地区】

今年も7月16日（月）には高積神社輪くぐり祭で午後3時30分から、7月30日（月）には伊太祁曾神社茅の輪くぐりで午後6時から、それぞれの地区の更生保護女性会の方々と保護司が一緒になって“社会を明るくする運動”のひとつとして街頭啓発を実施しました。

両日とも大変暑い日で、祭りに来られた子供や大人の人達には「うちわ」の啓発グッズが喜ばれていました。うだるような暑さの中での活動おつかれさまでした。（中村・記）



高積神社



伊太祁曾神社

北支部 第68回 社明月間 活動報告

① パームシティでの「社明街頭啓発」活動

7月14日午前11時からパームシティに於いて社明街頭啓発活動を実施。これには、保護司26名、更女3名、BBS会1名、計30名が参加しました。

今年は、特に暑さが厳しく「熱中症」等が懸念されましたが、お店側より「特別に店内で活動しても良い」との許可があり、心配なく活動ができました。配布物品は、うちわ・ボールペン・絆創膏・ウェットティッシュ等を数多く用意しましたが、約30分で無くなり、啓発を終了としました。

② 松江春日神社夏祭りでの啓発活動

7月14日午後6時から松江春日神社の夏祭りに合わせ、「社会を明るくする運動」の啓発活動を行ないました。参加者は、支部長以下10名でした。

夏祭りと言うこともあって、盆踊り・カラオケ大会等いろいろな行事が計画されていました。早速、和歌山保護司会の腕章をつけ啓発用うちわの配布となったが、祭りの参加者が多すぎ、用意した100個のうちわは一瞬にして無くなり、あっという間に活動の終了となりました。



▲パームシティに勢揃い

③ 北支部・松江地区社明ミニ集会

7月23日午後1時30分から中松江自治会館において開催されました。当日は、松江地区保護司と参加協力をお願いしていた自治会からの一般参加者合わせ38名での集会となりました。

和歌山保護観察所豊島企画調整課長より「更生保護の現状」及び宮本犯罪予防部長の「更生保護と薬物乱用防止」のお話を伺いました。



▲松江地区社明ミニ集会